

港湾振興便り



2016. 12

第115号

:~

目 次

::*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*~

- 1 ポートエッセイ ー2020年東京五輪の効果を
日本列島に広く波及させようー
～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

2 トピック

- 『北海道太平洋側港湾連携による災害時の相互応援に関する協定』の締結
(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)
- まちを守る大船渡港湾口防波堤(復旧工事)見学会
(岩手県大船渡市 商工港湾部 企業立地港湾課)
- 酒田港 コスタクルーズ糸川支社長講演「イブニングセミナーin酒田」を開催
(山形県酒田市 商工観光部 商工港湾課)
- 『港湾空港技術特別講演会in 新潟2016』を開催しました
(北陸地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課)
- 「宮子姫みなとフェスタ」が開催されました
(近畿地方整備局 和歌山港湾事務所)
- 八幡浜港フェリー埠頭再整備事業起工式を開催しました。
(愛媛県八幡浜市 産業建設部 水産港湾課)
- 出前講座でも“ご安全に!” ～若松高校(定時制)に行ってきました～
(九州地方整備局 北九州港湾・空港整備事務所)

3 お知らせ

- 港湾関係団体新春賀詞交歓会
- 自然体験活動の醍醐味～海の底力をはかる～ 第11回全国フォーラム

*:

1 ポートエッセイ

－2020年東京五輪の効果を

日本列島に広く波及させよう－

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

*:

2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、文化プログラムが本格的に始まった。文化プログラムに各地が積極的に取り組むと共に、大混雑必至の東京に外国人を滞在させるのではなく、列島全体で受け入れを検討し、実現していくプロジェクト、「プラス・トーキョー」に参画していくことも重要だ。

国は東京五輪をスポーツだけの祭典にせず、文化プログラムを日本列島全土で展開する方向性を明確にしてきた。4年前のロンドン五輪を超える20万件を4年間で実施する目標数値も明確化している。4年後の東京五輪が東京だけのものではなく、全国への波及効果を図り、今後の文化立国につながるレガシー(遺産)としたい考えた。

その文化プログラムを推進する核となる組織が「アーツカウンシル(芸術評議会)」だ。アーツカウンシルは文化庁が設立を支援しており、新潟市はその第1グループとして横浜市などと共に4月に選定いただいた。文化芸術の力で各地を活性化させようとの狙いで、アーツカウンシルはその司令塔的役割を担う。

文化プログラムは政府などが直接主催するものと、国が支援するもの、地方が独自で実施するものの3段階に分かれる。日本舞踊「市山流」の宗家・家元が活動する新潟では、政府主催の「文化オリンピアド」として、市山流の踊りが琉球舞踊などと共演する形で沖縄、東京、新潟の3地域で開催されている。各地の伝統芸能に光を当てる好機なので地方活性化に結び付けていきたい。

もう1つのプロジェクトが「プラス・トーキョー」だ。これはロンドン五輪のときに英国が取り組んだ「ロンドン・プラス」を下敷きにしている。ロンドン五輪のときも「よくなるのはロンドンだけ」との批判が絶えなかった。これを打ち消すために英国政府は「五輪できた外国人に、ロンドンに加えてもう1都市を訪れてもらおう」との運動に力を入れた。これが「ロンドン・プラス〇〇」運動だった。

私たちはこれを発展させる「〇〇プラス・トーキョー」運動を提唱している。「新潟プラス・トーキョー」であり、「静岡プラス・トーキョー」、「仙台プラス・トーキョー」である。つまり、訪れた外国人の本拠地を東京ではなく地方に置き、ご自分の観たい競技があるときに新幹線や飛行機で東京に行っていただく方式だ。ホテルも満杯で観光もままならぬ東京に滞在するより快適で、日本の地方の良さも十分に味わっていただける。この方が日本の魅力を満喫していただけるのではないか。各地での具体化を期待している。

静岡や新潟のように空港と新幹線駅が近いところは、その機能を発揮すれば良いし、各地の港にクルーズ船を浮かべてホテル代わりにする対応もあるだろう。各地での取り組みを期待している。

*:

2 トピック

*:

●『北海道太平洋側港湾連携による災害時の相互応援に関する協定』の締結

(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)

北海道開発局は、太平洋側に位置する港湾管理者(室蘭港、苫小牧港、函館港、釧路港、十勝港、根室港)等が連携し、大規模災害発生時においても港湾物流機能を確保するため、「北海道太平洋側港湾BCP」(平成28年4月)を策定しています。

平成28年11月29日(火)、本BCPの円滑かつ適正な実行に資することを目的として、太平洋側港湾の港湾管理者と災害時における相互応援に関する協定を締結しました。

写真:相互応援協定を結んだ開発局と6港湾代表



(左から、開発局、室蘭港、苫小牧港、函館港、釧路港、十勝港、根室港)

●まちを守る大船渡港湾口防波堤(復旧工事)見学会

(大船渡市 商工港湾部 企業立地港湾課)

10月28日(金)、大船渡港において「まちを守る大船渡港湾口防波堤(復旧工事)見学会」(主催:大船渡港振興協会、共催:国土交通省東北地方整備局釜石港湾事務所・大船渡市、協力:若築・あおみ特定建設工事共同企業体)が開催され、大船渡市立末崎小学校6年生34人が参加しました。

この見学会は、東日本大震災により甚大な被害を受けた大船渡港湾口防波堤の災害復旧工事状況(平成28年度末完成)について、大船渡湾内で実際に行われている工事現場等を見学することで、まちを守る湾口防

波堤の役割や災害復旧工事の現状、さらに港や船に関わる仕事への理解を深めることを目的として開催されたものです。

児童たちは、ふだん目にするのできない海からのまちの景色に目を輝かせながら、面前の湾口防波堤の大きさに感嘆の声を上げ、湾内の工事現場に驚いたり感心したりと、自分達の生活に欠かすことのできない港の役割や湾口防波堤の機能などを学びました。

○港湾業務艇「ごいし」乗船による湾口防波堤復旧工事現場見学(大船渡湾内)



○大船渡港について説明(若築・あおみJV事務所内)



●酒田港 コスタクルーズ系川支社長講演「イブニングセミナーin酒田」を開催

(酒田市 商工観光部 商工港湾課)

11月15日に酒田市内において、行政・民間企業等で構成する“プロスパーポートさかた”ポートセールス協議会 外航クルーズ船誘致部会が主催する「イブニングセミナーin酒田」が開催されました。

今年2回目の開催となる本セミナーでは、受け入れ態勢の構築や継続的なクルーズ船の寄港に向けた取り組みについて、各分野の専門家をお招きしてご講演をいただいております。

今回は、来年(平成29年)8月2日に酒田港初寄港となる外国クルーズ船『コスタネオロマンチカ』を運航するコスタクルーズ社日本支社長である糸川雄介氏を講師にお招きし、『コスタクルーズの寄港で幕開けする、酒田港の可能性』と題して講演いただきました。

講演の中で糸川氏より、「クルーズ船といってもいろいろなカテゴリーの船があり、乗客のみなさまはそれぞれ求めている船旅が異なるので、カテゴリーに応じた戦略が必要」「最近ファミリーで利用する乗客の方も増えており、レンタカーを利用するなど新しいクルーズでの楽しみ方も出てきている。新しい発想での提案をいただければありがたい」とのお話もありました。

講演会には約120人が参加。参加者は熱心に耳を傾けられていました。

<p style="text-align: center;">壇上に立たれる コスタクルーズ 糸川 雄介 日本支社長</p>	<p style="text-align: center;">観光施設を視察 【出羽三山（羽黒山）】</p>

●『港湾空港技術特別講演会in 新潟2016』を開催しました。

（北陸地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課）

平成28年11月9日（水）、朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンターにおいて『港湾空港技術特別講演会in新潟2016』を開催しました。

本講演会は、国土技術政策総合研究所（以下「国総研」）、国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所（以下「港空研」）及び当局の共催により、港湾、海岸、空港等の分野に関する最先端の研究・技術開発成果を一般の方々に分かりやすく情報提供することを目的として開催しています。

開会にあたり主催者を代表して、当局 長田次長並びに海上・港湾・航空研究所 山崎研究監にご挨拶いただきました。

挨拶に続き、港湾技術コンサルタンツ協会副会長の加藤一正様より「入射波向きと港の埋没」と題して、基調講演いただきました。

前半は講演内容に関して、より理解を深めるため、波の種類やそれぞれの波に起因する現象等、分かりやすくご説明いただき、後半は国内をはじめ、海外の港の埋没に関して実例を交えてご講演いただきました。

その後、港空研 沿岸土砂管理研究グループ 伴野主任研究官、新潟港湾・空港整備事務所 奥谷所長、港空研 中川沿岸環境研究領域長、桑江沿岸環境研究グループ長、山本構造研究グループ研究官、国総研 谷川空港施工システム室長より、それぞれの研究・技術開発成果等についてご講演いただきました。

当日は強風にもかかわらず約180名の皆様が来場され、熱心に聴講・質疑がなされました。

【開会挨拶】



北陸地方整備局
長田次長



海上・港湾・航空技術研究所
山崎研究監

【基調講演】

【質疑応答】



港湾技術コンサルタンツ協会
加藤副会長



聴講者との質疑応答

●「宮子姫みなとフェスタ」が開催されました

(近畿地方整備局 和歌山港湾事務所)

11月13日(日)に和歌山県御坊市の日高港にて「宮子姫みなとフェスタ」が開催されました。

この催しの「宮子姫」とは、藤原宮子のことであり、7世紀後半、九海士(くあま)の里(現在の御坊市)で生まれ、第42代文武天皇のお妃となり、第45代聖武天皇のご生母に至るまでが伝説となっております。

重要港湾である日高港は、県内の中心に位置しており、明治中期から大阪商船の紀州航路の寄港地として発展し、御坊市の海の玄関口である日高港のPRを目的に、毎年開催されています。

今年は晴天のなか、柏木市長の挨拶と関係者の紹介で幕が開きました。

御坊市とパートナーシティ協定を結んだ徳島県阿南市からの本場阿波踊り連(奴連)の演舞や、ステージ上では地元出身の若手女性歌手のコンサート、日舞、太極拳演武、よさこい、ハワイアンフラ、バレエ、ダンスパフォーマンス、和太鼓演舞と、いずれも地元を基盤に活動している団体の催しにおいても大いに盛り上がりました。

その後、会場では「陸」・「海」・「空」のそれぞれに乗じたイベントが開催されました。

当和歌山港湾事務所も、みなとの役割・和歌山県内での事務所の取り組み・海洋環境整備事業の紹介といったテーマで作成したパネルの掲示や海面清掃兼油回収船「海和歌丸」の模型、日高港のペーパークラフト「みなと立版古」の完成展示を行いました。どちらも小さい子供達に大人気で、親御さん等が促すまで見入ってしまう子供達が多名見受けられました。



和歌山港湾事務所出展ブース



宮子姫とブース前で記念撮影

また、「海」の催しとして、塩屋第二岸壁に於いて、田辺海上保安部の巡視船「みなべ」並びに当所の「海和歌丸」の船内公開が行われ、あわせて海洋環境整備事業の紹介パネルの展示も行いましたが、約660の方に訪れていただきました。

船が岸壁に着岸する前から長蛇の列ができ、公開前から関心の高さを実感するとともに、訪れた方々からは、船の構造(双胴構造)、ゴミや油の回収方法、海面清掃兼油回収船を国が自ら所有し、毎日運航も行っていることなどに驚きの声があがっていました。



海面清掃兼油回収船「海和歌丸」の一般公開

●八幡浜港フェリー埠頭再整備事業起工式を開催しました。

(愛媛県八幡浜市 産業建設部 水産港湾課)

平成28年11月26日(土)、八幡浜市において「八幡浜港フェリー埠頭再整備事業」の安全祈願祭及び起工式を開催しました。

当日は、すばらしい秋晴れのもと関係者約70人が参列し、工事の安全を祈念するとともに工事の開始を祝いました。

式典では、大城一郎八幡浜市長が式辞を述べ、山本公一環境大臣をはじめ国土交通省、愛媛県からもご祝辞を頂きました。

八幡浜港には、九州別府、臼杵との間に1日20便のフェリーが運航し、年間乗降車両約30万台、乗降人員約70万人の利用があります。

しかしながら、既存のフェリーターミナルは、老朽化が進行していることから、新たな施設の整備が必要となっており、併せて将来の船舶大型化や耐震機能の強化にも対応することが求められています。

今後も八幡浜港が四国の西の玄関口としての役割を果たすべく、工事の早期完成に向けて取り組んで参ります。



鍬入れ



山本公一環境大臣 祝辞

●出前講座でも“ご安全に！”～若松高校(定時制)に行ってきました～

(九州地方整備局 北九州港湾・空港整備事務所)

平成28年10月26日(水)に、若松高校(定時制)へ出前講座に行ってきました。

これは、10月29日(土)に若松高校(定時制)が予定している門司港レトロでの校外活動(まちなか散策)に先立ち、“港”や“門司港の文化・歴史”についての出前講座をとの要請を受けたものです。

これまで社会人を対象とした出前講座はありましたが、学生は初めてだったので、事前に担任の先生から学生及び学校側の要望等に関する意向確認をしっかりと行い、「学生に興味を持って聞いてもらえる資料」を目標として、すべて一から説明資料を作り直すなど、こちらも気合い十分で本番に臨みました。

授業は、1～4年生約50人と先生方5名を対象に視聴覚教室で行い、パワーポイントを使って説明をしました。

北九州港の歴史からスタートし、途中に挿入した沈埋トンネル工事の動画が専門的すぎて、一部睡魔を誘発してしまったというアクシデントもありましたが、門司港(特にグルメ)の話で盛り返し、会場からは「ここ知ってる、知ってる！」との声も聞こえてきました。

そしてなんとか説明が終了したあと、最後に生徒会長から「地元若松港を含め、港のことをたくさん知ることができてよかったです」とのお礼の挨拶をいただき、苦勞が報われた思いでした。

最後に、校外活動の無事を祈念し、事務所現場でお約束の“ご安全に！”の挨拶で締めました。

北九州港湾・空港整備事務所では、これからも多くの人に“港”を知ってもらえるようウェルカムの姿勢で、PRに取り組んでいきます。

※「ご安全に！」は、ドイツの炭鉱夫たちの間で交わされていた挨拶を参考に、日本の製鋼所で安全啓発策として使われたあいさつ言葉に端を発し、その後、鉄鋼業界を中心に日本全国へと広がっていったとされています。

それではみなさん、ご安全に！

- ◆当日の講座内容◆
1. 暮らしを支える港
 2. 港の役割【施設の紹介】
 3. 北九州港の紹介
 4. 若松の港湾について
(一部ビデオ放映)
 5. 門司港について





*:

3 お知らせ

*:

◇港湾関係団体新春賀詞交歓会

開催日時：平成29年1月19日(木)18:30～

会 場：ANAインターコンチネンタルホテル東京 地下1階「プロミネンス」

会 費：5,000円

主 催：公益社団法人日本港湾協会・全国港湾知事協議会・全国市長会港湾都市協議会
・日本港湾振興団体連合会・港湾海岸防災協議会

問合せ先：公益社団法人日本港湾協会 TEL03-5549-9575

◇自然体験活動の醍醐味～海の底力をはかる～ 第11回全国フォーラム

開催日時：平成29年1月21日(土) 13:30～17:30

開催場所：東京海洋大学品川キャンパス 2号館100A教室

東京都港区港南4丁目5-7 TEL03-5463-0400(代表)

定 員：100名程度

基調講演：笹川平和財団海洋政策研究所 海洋研究調査部長 古川 恵 太氏

「海の恵みに支えられて」

パネルディスカッション

「海の底力に想いを巡らす」

コーディネーター：東京海洋大学大学院海洋科学系海洋政策文化部門 教授 千足 耕一氏

パネリスト：勝島運河倶楽部理事兼事務局 嶋 村 泰 輝氏

横浜市立幸ヶ谷小学校校長 小 正 和 彦氏

国立沖縄青少年交流の家次長 水 沢 豊 子氏

主 催：NPO法人 海に学ぶ体験活動協議会(CNAC)

問い合わせ：NPO法人 海に学ぶ体験活動協議会(CNAC)事務局

